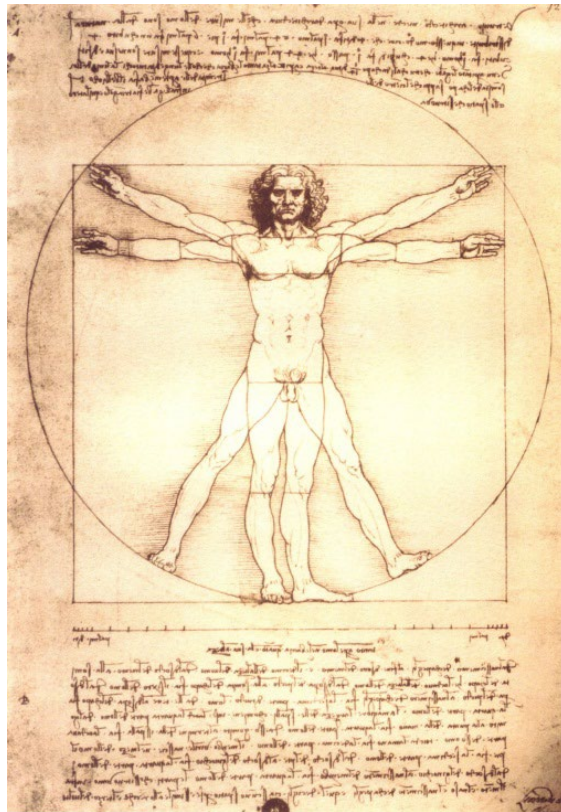


湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ



大学名 湘南医療大学 保健医療学部

所属 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

名前 柴田 昌和

作成日 2024年8月8日

1. 教育の責任

本大学は、保健医療学部、薬学部の2学部を有し、保健医療学部では看護学科(140名)、リハビリテーション学科(理学療法専攻40名、作業療法専攻40名)の2学科2専攻、薬学部は医療薬学科の1学科で構成されている。私はリハビリテーション学科、理学療法の所属であるが、主に看護学科、リハビリテーション学科の両学科の国家試験の基礎医学系に関連する生理・解剖系の科目を担当している。これらを講義・実習を行うことで臨床科目の基礎力・知識力を教授することを責務としている。さらに、4年次には看護学科とリハビリテーション学科の両学科の解剖学・生理学の国家試験対策も行い国家試験の合格率にも貢献している。また、大学内の教育活動として、入試委員会の構成員でもあり、本学のアドミッションポリシーのもとに質の高い学生の入学・定員確保に尽力している。さらに、研究倫理委員会の構成員でもあり、大学内の研究論文の倫理に関しても責務を負っている。

担当科目

科目名	必修 選択	授業 形態	単位数 (時間)	配当 年次	受講者数	学科・専攻
解剖学Ⅰ	必修	講義	1 (15)	1年前期	80	リハビリテーション学科
解剖学Ⅱ	必修	講義	1 (15)	1年前期	80	リハビリテーション学科
解剖学Ⅲ	必修	講義	1 (15)	1年後期	80	リハビリテーション学科
解剖学実習	必修	実習	2 (90)	2年通年	80	リハビリテーション学科
人体の構造・機能Ⅰ	必修	講義	2 (60)	1年前期	140	看護学科
人体の構造・機能Ⅱ	必修	講義	2 (60)	1年後期	140	看護学科
理学療法基礎	必修	講義	1 (15)	1年前期	40	理学療法専攻
チーム医療論	必修	演習	1 (15)	4年後期	220	看護学科 リハビリテーション学科

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

知識・基礎をベースに学生の考える力を育てる

入学後の学生の解剖学のイメージは暗記することと思っている。また、暗記の量が多くて好きになれないという学生も少なくない。実は、どの職業も基礎的な学力をなくして応用や考えた行動ができない。特に、医療系の職業に関して直さらのことである。そこで求められるのは、「考える力」、「考えて行動する」ことである。看護師も理学療法士および作業療法士も自分の体の構造を理解できなければ、病気の理解も治療もできない。解剖学や生理学は暗記ではなく、理論に基づいた教授が必要である。

人体の構造・機能の面白さを伝える

看護師も理学療法士および作業療法士も講義の中で国家試験のための学習ではなく、臨床に役立つ人体の構造と機能を解りやすく、身体の構造や機能がどのように連動しているのかと興味を持てる教授を行う。私の講義の中では能動的授業を心掛けている。常に「何故」という疑問を持ってもらう。疑問を持ったならそれを自分なりにまとめ人に話することができる。なぜならば、看護師も理学療法士および作業療法士も将来患者さんとのコミュニケーションが重要になるからである。そのため講義の中で、基礎的なことに「小話」や「何故」、「どうして」さらに「エピソード記憶」のキーワードを交えながら楽しく考える授業の実践を行っている。

2) 理念をもつに至った背景

本大学の基本的理念に「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の考えのもとに、保健・医療・福祉・教育を担当し、そして、社会へ奉仕することを目指す。この中に、湘南医療大学の理念を学生に徹底し、大学教育の目的、湘南医療大学のディプロマポリシー、湘南医療大学のミッション、教育部門に期待することとして、1) 学生の成長に貢献する学校を作る。2) 社会に貢献できる学生を作る。3) 高度な専門知識をもった学生を育てる。など大学教育の目的をしっかりと持っている。このようなことを学生に伝えることが重要であり、これを背景として、学生一人ひとりの個性を大切にし、3つのポリシーにそった教育を行うことが重要である。看護師、理学療法士、作業療法士ともに、これらのことを学習・修得するためには、人格的な資質を育むことはもちろん、豊かな教養により醸成された人間性を身に着けることが不可欠である。本大学では4年間を通じて基礎教養、臨床実践、多職種協同を経験することにより自ら多角的に物事を考える力が身に着ける教育の一助ができると考える。

3. 教育の方法・戦略

1) 基礎知識をベースに自ら考える力を育てる戦略

解剖学、生理学は、「形あるところに、必然的にその作用がある」が基本ベースの考えである。しかし、現在の解剖学・生理学は細分化され局所的な説明がされる場合が多く散見される。したがって、多くの学生は体全体の構造と機能がうまくつながらないことが多い。ゆえに、局所の暗記に走りがちになることが多い。そこで戦略的に「何故」このような構造があるのか、「何故」このような動きができるのかを、学生に質問を交えながらの能動的講義を行っている。例えば、「どうして我々の体が動くのだからか」の質問を学生にする。1人で答える事が難しい場合には、何人かのグループで考えさせる。すると、多くの場合、「筋肉が収縮するから」と答えてくる。では、「何故、筋肉が収縮すると動くのか」とまた質問すると、骨があるからと答えてくる。そこで、初めて、その骨同士には関節があり、その間に筋肉が橋渡しをする。その筋肉の収縮には神経からの伝達が必要になる。さらに、筋の収縮にはカルシウムとマグネシウムイオンが必要に

なる。このように、一つのキーワードに連動させて説明し、理論的に体の運動についての知識を得られる工夫をする。さらに、次の週にもう一度繰り返して、説明をさせたり、記述させる。これにより更なる理解度を深める。

2) 毎週の小試験の実施と学生同士での採点の戦略

前週に学習した内容を次の週に簡単な確認の小試験を実施し、解答をこちらで解説しながら、学生同士で採点をおこなう。これにより、学生同士の間で、ミスや理解できている点、理解が至らなかった点、などの認識ができ、学生同士で切磋琢磨できる。

3) 人体構造を理解するアクティブラーニングの戦略

2年次のリハビリテーションの解剖学実習では、理学療法専攻と作業療法専攻の混合での4人グループを編成する。第1段階として、ペーパークラフトのボニーの作成をする。この時、それぞれの骨の部位を英語表記させる。第二段階は、それぞれのグループ内で分解骨のスケッチを行い、各骨の位置の確認や名称を入れる。スケッチした上にトレーシングペーパーをのせ、その骨に起始する部位に赤色、停止する筋の部位に青色、関節面に緑色を塗ることで、骨と筋肉の起始や停止の位置関係を立体的に理解する。第3段階では、グループ共同で作成したペーパークラフトのボニーに毛糸を筋肉に見立て、骨学でスケッチした筋の起始・停止を確認しながら付けて、筋の動きの確認をする。第4段階では、これまでのことをグループ内で復習し、教えあい、最後に口頭発表を行うことで全身の骨と筋肉の繋がりや作用を理解できる工夫を行っている。これにより、理学療法専攻の学生の良い点や作業療法専攻の学生の良い点を補うことができ、チーム医療にもつながる。これら4つの過程を通して「見て」、「触れて」、「体験し」、「覚えて」、「説明」をすることができるアクティブラーニングを戦略的に行っている。

4. 学習成果

授業評価として「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「解剖学実習」、「人体の構造・機能Ⅰ・Ⅱ」ともに毎年4.5以上の評価を得ている。以下に学生からの授業評価のコメントを記載する。

- 先生の説明が分かりやすかった。
- 学生の理解度を気にしながら進めてくれたので、ついていきやすかったです。
- めちゃくちゃ分かりやすい。
- 小試験があり、復習で先生が生徒を指名し、答えさせるものがあり、自ら進んで勉強する気になったから。
- 生徒にあてて確認をしてくれたこと、レジメもカラフルで分かりやすく、重要なところは重要だ之行ってくださったので覚えやすく、また面白い話も多く楽しく受けられました。
- 授業がとにかく分かりやすくて、ちゃんと聞こう！と思って授業を受けることができました。レジメに書いてある内容だけじゃなくて先生の持っている雑学とか面白い話とかを聞くのも、やる気に繋がりました。

などの授業評価のコメントを得ているので、能動的授業の効果があると考えます。

・2021年度、2022年度の理学療法専攻卒業生の国家試験合格率は100%を達成し、2022年度の作業療法専攻100%合格した事に貢献していると考えます。

5. 改善のための努力

改善が必要なものに関しては、

- ・今後も見やすく、分かりやすい資料の作成を、常に工夫をし、見にくい部分を見やすく、改善するための努力をしている。
- ・学生からは、講義中に使用した動画をいつでもみやすいようにしてほしいとのコメントもあることから、講義で使用した動画やイラストなど、著作権などを考慮しながら学生に、いつでも見せられるツールの作成が必要か考えるので、それに向けての努力をする。
- ・常に学生の目線で資料を作成するように心がけている。
- ・小試験終了後に時間の許す限り、解答の説明のみならず、解答に至るまでの過程を理論的に話すように試みている。
- ・国家試験を分析し国家試験に沿った資料を作成するように心がける。

6. 今後の目標

短期的目標

1) 小試験の充実: 解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、人体の構造・機能Ⅰ・Ⅱで毎回実施している小試験であるが、評価としてはおこなって良かったとのコメントがあるが、成績に関しては良いとは言えない学生が多く、小試験の解答率を平均70%または最低点が60%を超える学力・知識をつけるための工夫をした教材作成を今後とも続ける。

2) 復習の習慣化: 毎回の講義終了後に復習の習慣をつけさせるように指導し、学習ノートの実施する。

長期的目標

1) 人体構造の3次元的理解: 4年間の講義や実習を通して、身体全体の構造や機能などの知識を身につけるために、研究室や実習室を学生に開放し、自由に学べ、気軽に質問ができる空間をつくる。

2) 国家試験100%合格: 2022年、2023年、2024年と理学療法学専攻は100%国家試験合格、作業療法専攻は2022年、2024年100%合格、看護学科は常に95%以上の合格であるが、常に卒業生の国家試験100%合格できる学力を身につけるための、補講や国家試験対策を続ける。また、国家試験の合格のみならず、良き人格形成と幅広い医学的知識を得るための教材やシステムを常に考えていく。